

上位・関連計画

- 【県】
- 但馬地域ビジョン  
目指す方向：「あしたのふるさと但馬～コウノトリ翔る郷～」  
→「あしたのふるさと」とは、そこに住む人々だけではなく、訪れる人々とも、共に安らぎや感動、共に生きる喜びを分かち合える「交流・共生」の地域
  - 但馬地域都市計画区域マスタープラン  
目指す都市構造：市町ごとの都市機能集積地区において、日常生活に必要な都市機能の維持・充実を図るとともに、交通ネットワークによる地区間の連携強化により、都市機能の相互補完を行い、地域全体での都市機能の確保を図る。
  - ひょうご公共交通10カ年計画  
計画の目指すべき方向性（理念）：豊かで活力ある県民生活を支える持続可能で安全・安心な公共交通～公共交通を県民とともにつくり・まもり・育てる～
- 【市町】
- 基本構想（豊岡市）
  - 総合計画・まちづくり計画（養父市、朝来市、香美町、新温泉町）
  - 都市計画マスタープラン（豊岡市、養父市、朝来市）
  - 立地適正化計画（朝来市）
  - 地域公共交通網形成計画（豊岡市、朝来市、北近畿タンゴ鉄道沿線地域）

- 【国】
- 地域公共交通活性化再生法の改正
    - 地方公共団体による「地域公共交通計画」作成の努力義務化
    - 定量的な目標設定、実施状況の分析・評価の明確化
    - 利用者目線による路線の改善、運賃の設定、MaaSの普及促進に向けた措置
    - 自家用有償旅客運送制度の実施の円滑化、貨客混載に係る手続きの円滑化 等

但馬地域の公共交通の課題

地域の移動に関する事項

- 公共交通空白・不便地の移動手段の確保
- 生活圏の広がりによる移動範囲の広域化
- 利用状況にあわない車両サイズ
- 点在する集落の人口減少
- 高齢者など運転できない人の増加
- 移動制限がある人の外出機会・交流機会の減少
- 公共交通に関する公的負担の増加

公共交通の利便性に関する事項

- 高齢者の増加とバリアフリー対策の遅れ
- 乗継利便性の低さや待合環境の悪さ
- 生活時間に合わない公共交通の運行時間
- 利用者目線に立った情報の提供不足
- 季節に伴う需要の変動

観光・交流に関する事項

- 広域的な公共交通アクセスの不足
- 観光資源をつなぐ二次交通の不足
- 観光と公共交通の連携不足

公共交通の維持に関する事項

- 公共交通を担う人材不足
- 公共交通利用者の減少
- 地域の公共交通の維持・確保に対する意識の低さ

計画の目指すべき方向性

地域が目指すべき姿

住民の暮らしと広域的な交流を支える公共交通の実現

目標

目標1 地域住民の暮らしを支える移動手段を確保する

地域住民の生活圏を踏まえた公共交通ネットワークを構築し、公共交通空白地や公共交通不便地における移動手段の確保を目指す

<指標>	<現況値>	<目標値>
市町をまたぐ新たなバス路線数	-	3路線
公共交通空白地の割合(人口・面積)	(人口)4% (面積)23%	(人口)3% (面積)20%

目標2 誰もが公共交通を使いやすいようにする

利用環境の向上を図り、誰もが使いやすく、安全・安心に利用できる公共交通を目指す

<指標>	<現況値>	<目標値>
路線バス・コミュニティバスのノンステップバス導入率(ワンステップバス等を含む導入率)	31% (80%)	40% (90%)

目標3 観光・交流を支える

地域間・都市間の円滑な移動や観光地と交通拠点を結ぶ公共交通サービスの充実により、観光客にとって利用しやすい公共交通を目指す

<指標>	<現況値>	<目標値>
高速バス・長距離バスの路線数・運行本数	(路線数)5路線 (運行本数)30本	(路線数)6路線 (運行本数)36本
高速バスストップの整備箇所数	2箇所	8箇所
たじまわりの利用者数	8,499人/年	9,500人/年
特急停車駅の乗降人数	11,196人/日	11,196人/日

目標4 地域で公共交通をまもる

公共交通の課題を、住民、交通事業者、行政等で共有し、公共交通の維持・活性化に向けた取り組みを一体となって推進する

<指標>	<現況値>	<目標値>
路線バス・コミュニティバスの収支率	(コミバス) 11-18% (路線バス)52%	(コミバス) 13-20% (路線バス)58%
住民1人あたりの公共交通への年間公的資金投入額	4千円/人	4千円/人
但馬地域一体で実施する公共交通を担う人材確保に向けた活動数	-	1回/年

【総合評価指標】

<指標>	<現況値>	<目標値>
地域住民の公共交通の満足度	13.8%	15.0%
路線バス・コミュニティバスの住民1人あたりの年間利用回数	9.25回/年	9.25回/年

【計画期間】  
2022年(令和4年)～2031年(令和13年)までの10年間  
※令和8年に中間評価を行い、必要に応じて見直し

目標達成のための施策

基本施策1 地域路線の再編

- 施策① 生活圏に合わせたバスの運行
- 施策② 車両サイズの最適化等による交通手段の見直し
- 施策③ バス路線の再編・再構築
- 施策④ 生活交通の維持・確保

基本施策2 地域の実情に合わせた交通手段の導入

- 施策⑤ デマンド型交通の導入
- 施策⑥ 住民等が主体となった地域交通確保の取り組みへの支援
- 施策⑦ 登下校時間分散等による輸送資源の活用

基本施策3 多様な手段を用いた公共交通の運営

- 施策⑧ 新技術を活用した移動手段の検討
- 施策⑨ 他分野との連携による移動手段の確保
- 施策⑩ ICTを活用した運行管理・配車システムの導入

基本施策4 公共交通を安全・安心に利用できる環境の整備

- 施策⑪ 交通拠点及びその周辺のバリアフリー化
- 施策⑫ バス停等の整備
- 施策⑬ 鉄軌道車両、バス車両、タクシー車両のバリアフリー化

基本施策5 交通結節点における利便性の向上

- 施策⑭ 集約型バスターミナルの整備
- 施策⑮ 駅待合環境の改善、駅舎の整備・改築、バス待合環境の改善
- 施策⑯ パーク＆ライド駐車場・駐輪場の整備

基本施策6 公共交通の利便性の向上

- 施策⑰ わかりやすい情報提供・案内
- 施策⑱ 輸送サービスの改善、バスの定時制確保、乗り継ぎの円滑化
- 施策⑲ 利用しやすい料金・わかりやすい料金の設定
- 施策⑳ 交通系ICカードの導入・利用エリア拡大、キャッシュレス決済、モバイルチケット・定期券の導入
- 施策㉑ 経路検索サービスの充実
- 施策㉒ MaaSの導入検討

基本施策7 広域的な公共交通ネットワークの充実

- 施策㉓ 高速バスネットワークの充実
- 施策㉔ 空港へのアクセス交通の充実

基本施策8 観光交通としての利便性向上

- 施策㉕ 観光列車・周遊バスの運行、交通拠点からの二次交通の充実
- 施策㉖ 企画乗車券等による利用促進
- 施策㉗ 観光客への公共交通の情報提供

基本施策9 公共交通を担う人材の確保

- 施策㉘ バス運転手・タクシー運転手確保に向けたPR 活動の実施
- 施策㉙ 地域交通を担う団体向け講習会の開催

基本施策10 公共交通の利用促進

- 施策㉚ 地域一体で取り組む組織的・継続的な利用促進運動、公共交通利用促進イベント等の実施
- 施策㉛ 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施
- 施策㉜ 公共交通への利用転換の意識啓発(モビリティ・マネジメントの実施)
- 施策㉝ 高齢者や学生などに対する運賃負担軽減策の実施

基本施策1 地域路線の再編

施策① 生活圏に合わせたバスの運行

- 通勤・通学、通院、買い物等の地域の生活圏に合わせた路線バス・コミュニティバス等の広域運行を推進



施策③ バス路線の再編・再構築

- バス路線の機能を整理し、効率化及び利便性確保のバランスに配慮しながら、再編・再構築を推進

【検討の進め方】

- 地域の特性や需要の変化を踏まえ、路線ネットワークだけでなく、運賃やダイヤ等の見直しを含めた利用者の利便を増進に資する取り組みである「地域公共交通利便増進事業」の活用を検討する



施策④ 生活交通の維持・確保

- 地域の日常生活を支えるバス路線を維持するため、運行経費等支援を実現

基本施策2 地域の実情に合わせた交通手段の導入

施策⑤ デマンド型交通の導入

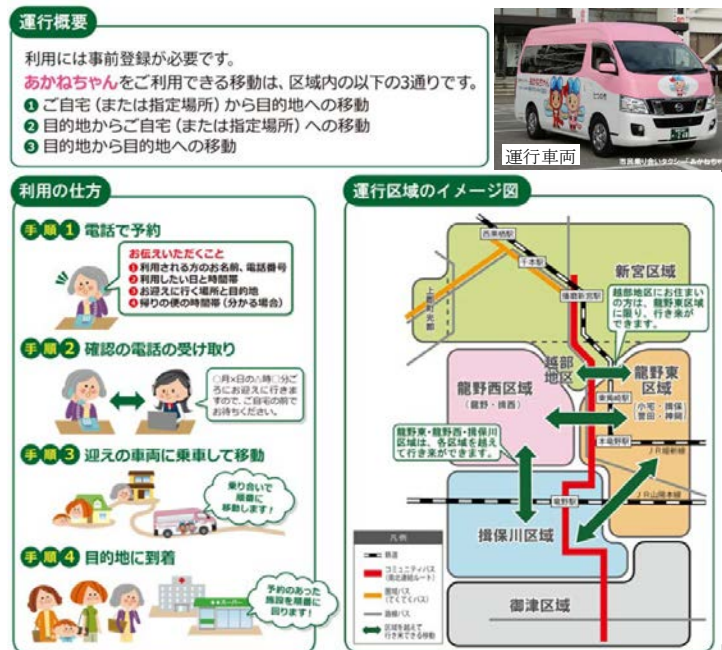
- 利用者の予約により運行し、運行経路（路線）、運行時刻（時刻表）、乗降地点（停留所）に柔軟性を持たせることで、地域の実情に合わせた多様な形態で運行するデマンド型交通の導入を推進

【検討地域】

- 養父市宿南地区、香美町小代地区 等

[デマンド交通導入の事例（たつの市）]

- 利用者が少ない定時定路線型のコミュニティバス路線の見直しを実施。住民の日常の移動を支えるとともに、鉄道や路線バス等の幹線交通へ接続する支線の役割を担う移動手段として、市民乗り合いタクシー（デマンド型交通）を市内全域で導入。
- デマンド型交通の導入により、公共交通空白地域の解消や鉄道・定時定路線型のバスでは対応が難しい細かな需要への対応を図った。



施策⑥ 住民等が主体となった地域交通確保の取り組みへの支援

- 自家用有償旅客運送制度を活用し、地域住民等が主体となった地域の移動手段確保の取り組みを支援

【検討地域】

- 豊岡市寺坂地区、香美町小代地区 等

[自家用有償旅客運送の事例（チクタク（豊岡市））]

- コミュニティバス「イナカー」が廃止された地域等の公共交通空白地域における移動手段を確保するため、地元関係者で組織する運営協議会が運行。
- 豊岡市内4 地域で「チクタク奥山」「チクタクひぼこ」「チクタク資母」「チクタク合橋」が運行。

<チクタク事業のしくみ>



出典：豊岡市地域公共交通網形成計画

基本施策3 多様な手段を用いた公共交通の運営

施策⑧ 新技術を活用した移動手段の検討

- 道路幅の狭い地域や傾斜地等におけるバス停までの端末移動手段として、グリーンスローモビリティの導入に向けた実証運行を推進
- 自動運転技術の導入に向けた実証運行を推進

【検討地域】

- 香美町小代地区：グリーンスローモビリティ導入の検討

[自動運転バス実証実験の事例（三田市）]

- 三田市ウッドタウン地区において、安全・低コストで運行可能な中型バス自動運転バスの検証のため、実証実験を実施。



施策⑨ 他分野との連携による移動手段の確保

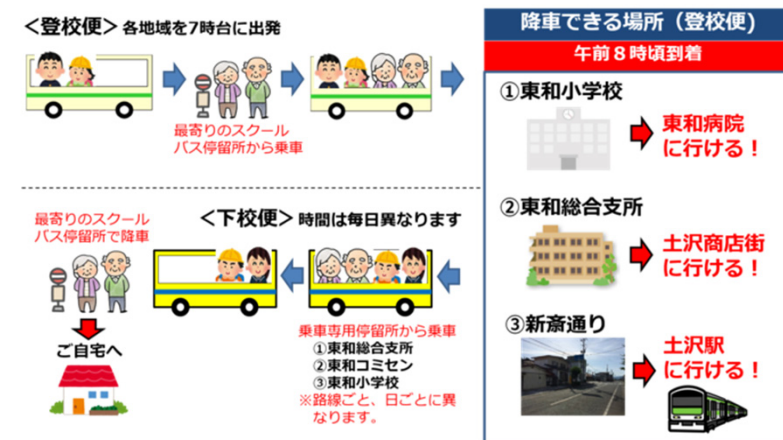
- 貨客混載による新たな収入源の確保やスクールバス、福祉輸送等との連携により、地域の持続可能な移動手段を確保
- 交通事業者が商業分野、福祉分野等と連携し、一連のサービス提供により、利便性向上と収支改善を図る

【検討地域】

- 香美町余部地区：スクールバス活用の検討
- 豊岡市：社会福祉協議会との協業による交通体系の検討 等

[スクールバスへの一般混乗制度（花巻市）]

- スクールバスに一般の利用者が児童生徒と一緒に乗ることが出来る制度を実施。スクールバス混乗化により、地域住民の移動手段を確保している。



出典：花巻市HP

施策⑩ ICTを活用した運行管理・配車システムの導入

- 効率的で利便性が高いデマンド型交通とすることを目的に、ICTを活用し、利用者の予約に応じて運行経路や配車スケジュールを作成するシステムの導入を推進
- 運行管理者の負担軽減及び効率化を目的に、オンラインによる運行管理（IT点呼）の活用を推進

【検討地域】

- 香美町余部地区：デマンド型路線への予約システムの導入

[配車システム導入の事例（チョイソコ加古川（加古川市））]



出典：加古川市HP

基本施策4 公共交通を安全・安心に利用できる環境の整備

施策⑫ バス停等の整備

- ・バス停の周辺環境を踏まえ、安全にバスに乗降できるようバス停や歩道の整備を推進
- ・見通しの良い場所にバス停を設置するなど、安全を確保できる位置のバス停設置を推進

【各市町の取り組み】

- ・豊岡市、朝来市：バス停整備・修繕にかかる補助メニューを創設し、地元からの要望に合わせて対応を検討
- ・養父市関宮地区：バスを安全に乗降できるよう環境整備を検討

[バス停の整備事例（伊豆橋バス停（養父市））]



基本施策5 交通結節点における利便性の向上

施策⑭ 集約型バスターミナルの整備

- ・鉄道、高速バス、路線バス等の多様な交通機関を円滑に乗り継げる拠点の整備を推進

整備を検討する高速バスストップ



【整備事例】道の駅ようか但馬蔵

- ・高速バス2路線、路線バス6路線が乗り入れるバス乗継拠点となっており、地域の賑わい拠点と一体となった交通拠点



出典：道の駅ようか但馬蔵HP

- ：高速BS(検討箇所)
- ：高速BS(既設)

施策⑯ パーク&ライド駐車場・駐輪場の整備

- ・鉄道駅、高速バス停留所でのパーク&ライド駐車場の整備、サイクル&ライド用駐輪場の整備を推進

[パーク&ライド駐車場の整備事例]



[サイクル&ライド駐輪場の整備事例（養父市）]

- ・八鹿駅前において、露天であった駐輪場を、屋根付きの2段式駐輪場として整備し、市内外の通学・通勤者への利便性の向上を図った。



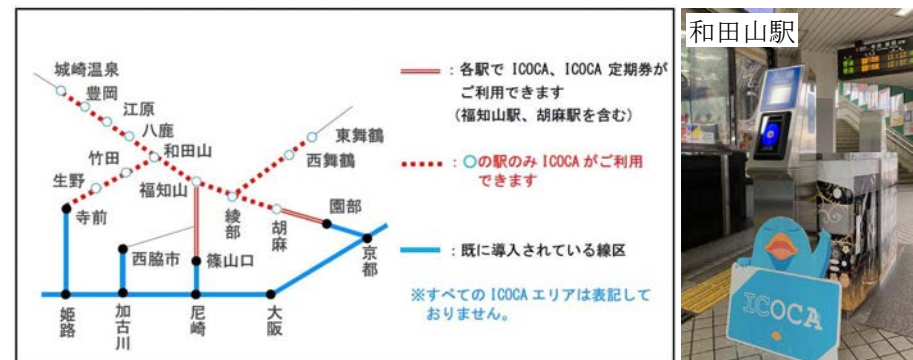
基本施策6 公共交通の利便性の向上

施策⑳ 交通系ICカードの導入・利用エリア拡大、キャッシュレス決済、モバイルチケット・定期券の導入

- ・ICOCA利用エリア拡大、路線バスやコミュニティバス等へ交通系ICカードの導入、QRコード決済等のキャッシュレス決済の導入、普及に向けた地域における取り組みを推進

[交通系ICカードの導入（JR西日本）]

- ・2021年3月よりJR山陰本線・播但線の但馬地域の主要駅においてICOCAの利用が可能となり、キャッシュレス化による公共交通利用時の利便性が向上。



出典：JR西日本HP

[交通系ICカード普及に向けた取り組みの事例（朝来市）]

- ・JR西日本と連携し、鉄道を利用した婚活イベントを実施。参加者にはICOCAを配布し、イベントと合わせて鉄道の利用増進・ICOCAサービスの普及を図った。



出典：朝来市HP

基本施策7 広域的な公共交通ネットワークの充実

施策㉑ 高速バスネットワークの充実

- ・高規格道路等の整備に合わせて、広域的な高速バスネットワークの強化を図る
- ・高速バス停留所と地域拠点をつなぐ二次交通の充実を図る

北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道整備後の高速バスネットワーク



【高速バスネットワークの考え方】

- [東西路線] 鳥取⇄豊岡⇄京都の都市間高速バス路線
- [南北路線] 城崎⇄神戸・大阪・姫路の都市間高速バス路線
- ・各IC近傍にバスストップ、パーク&ライド駐車場の整備を検討
- ・バスストップと地域拠点間は二次交通によりアクセスを確保

施策㉒ 空港へのアクセス交通の充実

- ・コウノトリ但馬空港への高速バス乗り入れや路線バス、コミュニティバス、デマンド型乗合タクシー等による二次交通の充実によりアクセス改善を図る

[デマンド型乗合バスの実証実験（全但バス）]

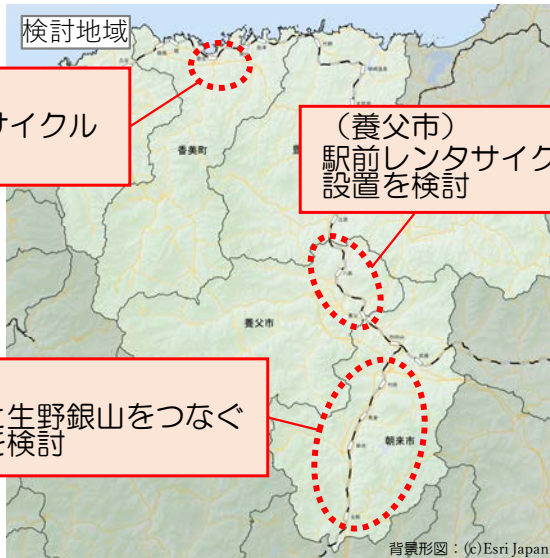
- ・令和3年11月1日から令和4年1月31日まで但馬空港から城崎温泉を中心とした観光地を周遊するオンデマンド周遊バス『どこでも「たじまわる」』の実証実験を実施。城崎温泉エリア、但馬空港や出石などの豊岡市内エリア、湯村温泉などの豊岡市外観光地エリアの観光地エリアを運行。オンデマンド交通配車サービスを用いてスマートフォン等から予約が可能。



基本施策8 観光交通としての利便性向上

施策②⑤ 観光列車・観光周遊バスの運行、交通拠点からの二次交通の充実

- 観光地を結ぶ特急列車、レストラン列車等の観光列車、点在する観光地を周遊するバス等の運行を推進
- 主要駅・高速バス拠点と観光地を結ぶ二次交通（路線バス、コミュニティバス、タクシー、レンタサイクル、シェアサイクル等）の充実を図る



（香美町）  
香住駅のレンタサイクル  
拡充を検討

（養父市）  
駅前レンタサイクルの市内  
設置を検討

（朝来市）  
竹田城跡と生野銀山をつなぐ  
周遊バスを検討

〔観光地を結ぶバスや観光列車の事例〕

＜夢但馬周遊バス「たじまわる」（但馬地域）＞

- コウノトリの郷公園、城下町出石、竹田城跡等但馬の主要観光施設を周遊できる「たじまわるプレミアム」をはじめ、但馬地域を満喫できる多数のコースを季節に合わせて運行



出典：全但バス パンフレット

＜丹後くろまつ号（京都丹後鉄道）＞

- 沿線の景色と地元の食材を使った料理が楽しめる観光列車を運行



出典：WILLER TRAINS HP

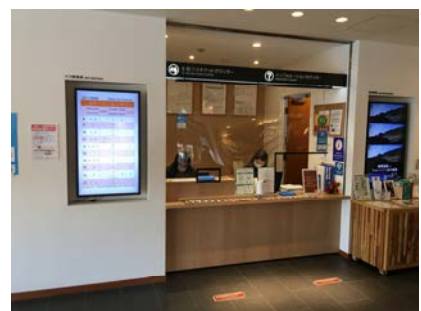
施策②⑦ 観光客への公共交通の情報提供

- 観光地の公共交通アクセス情報の提供、駅やバス停における外国人を含む観光客にとってわかりやすい案内誘導・多言語表示の整備を推進

〔観光地への公共交通アクセスの情報提供の事例〕

＜城崎温泉ツーリストインフォメーションSOZORO（全但バス）＞

- 城崎温泉駅前に設置されているインフォメーションセンター。周辺の観光案内やオプションツアーの提供、レンタサイクル等を行っている。有人によるバスチケット販売やデジタルサイネージによるバス案内を行い、観光客の利便性向上を図っている。



基本施策9 公共交通を担う人材の確保

施策②⑧ バス運転手・タクシー運転手確保に向けたPR活動の実施

- 行政と交通事業者が連携し、女性や若年者を対象にパンフレットの発行や職場見学ツアー等により、バス運転士等の公共交通分野の仕事の魅力を発信するPR活動を実施

〔運転手採用に向けた取り組み事例（全但バス）〕

- 運転手採用に向け、バス運転手募集の説明会・運転体験会を実施。また、免許取得支援制度を設け、大型2種免許を保有していない応募者への対応も行っている。



- 各市町と連携し、U・I・Jターンなどの移住を考えている人の暮らしに関する支援など、運転手の確保と定住促進に取り組んでいる。



出典：全但バスHP

基本施策10 公共交通の利用促進

施策③① 鉄道の利便性向上、利用者数増加の取り組みの実施

- 「但馬地域鉄道利便性向上対策アクションプログラム」に基づき、鉄道の利便性向上、利用者増加の取り組みを実施

【「但馬地域鉄道利便性向上対策アクションプログラム」により継続実施及び今後検討する取り組み】

＜交流人口の拡大プログラム（抜粋）＞

実施主体	施策	実施駅	着手年度
朝来市	婚活イベント	竹田駅	2020年度 →継続実施
香美町	余部鉄橋「空の駅」を軸とした観光拠点再整備	余部駅 鎧駅 香住駅	2018年度 →継続実施
新温泉町	鉄道グッズ館「鉄子の部屋」の運営	浜坂駅	2008年度 →継続実施
養父市	観光案内コーナー設置	八鹿駅	今後検討
朝来市	神子畑選鉱場跡を活用した観光促進	-	今後検討

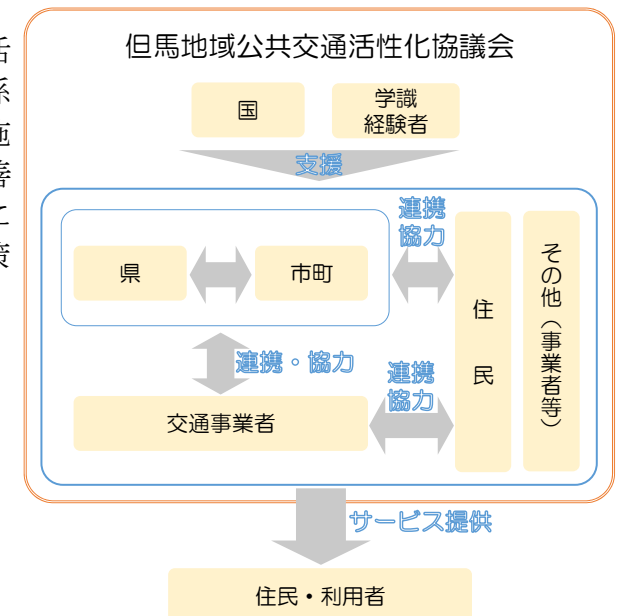
＜利用者意識の醸成プログラム（抜粋）＞

実施主体	施策	実施駅	着手年度
養父市 但馬農業 高校	高校生による駅前ロータリー花壇の植栽整備	-	2020年度 →継続実施
朝来市	J R 播但線団体利用促進補助金	-	2020年度 →継続実施
香美町	グループ利用者等運賃助成	香美町内5駅 江原・八鹿駅	今後検討

出典：令和3年8月「J R 山陰本線・播但線 利用促進実施計画」

〔計画の推進体制〕

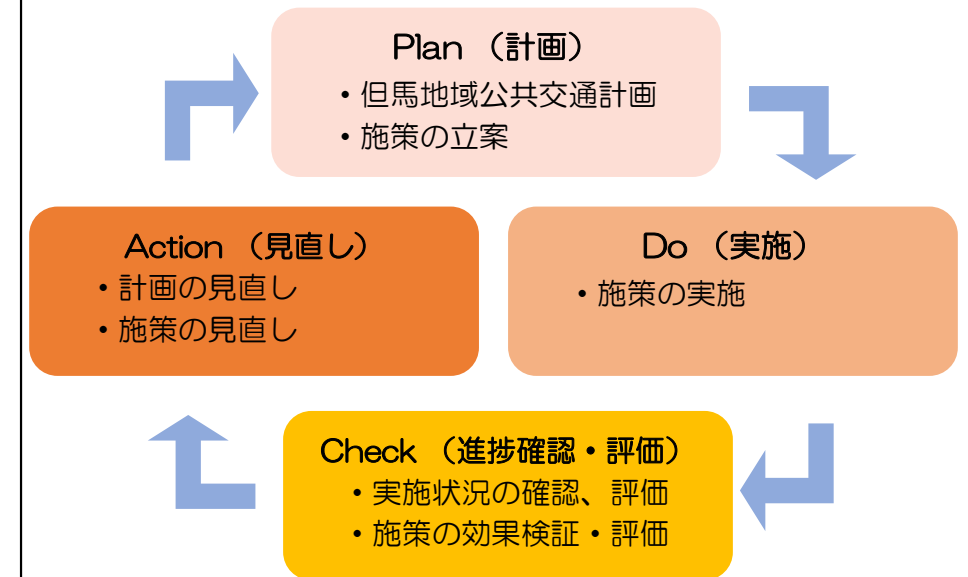
公共交通の維持・活性化に向けて、各関係者が連携・協力し、施策の実施、評価、改善を継続的に行うことにより実効性のある施策展開を図る。



〔施策の評価・検証〕

計画の策定から、施策の実施、評価、改善を繰り返すP D C Aサイクルにより、着実に実効性のある施策展開を図る。

計画策定後は、毎年度「但馬地域公共交通活性化協議会」において、各施策の進捗状況や効果を検証・評価を行う。計画の中間年（策定後5年目）には、各施策の進捗状況や施策の評価、課題等を関係者間で共有した上で、必要に応じ、計画の見直しを行う。



《評価・検証スケジュール》

計画策定（2020年～2021年）		
1年目	2022年	進捗確認・評価
2年目	2023年	進捗確認・評価
3年目	2024年	進捗確認・評価
4年目	2025年	進捗確認・評価
5年目	2026年	進捗確認・評価
6年目	2027年	進捗確認・評価
7年目	2028年	進捗確認・評価
8年目	2029年	進捗確認・評価
9年目	2030年	進捗確認・評価
10年目	2031年	進捗確認・評価

中間評価  
（必要に応じて計画見直し）

最終評価  
（次期計画の検討に反映）